

CLC からしだね書店便り



CLC からしだね書店では…

- 1 キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- 2 お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- 3 ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- 4 コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- 5 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- 6 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- 7 読書会や著者を招いての講演会など、人と人との出会い、つながる「対話」の場を提供します。



2022年9月27日、安倍晋三元首相（享年67歳）の国葬が執り行われた。参列者は4183人、費用は国費（税金）16億6000万円だったと言われている。

その2日後の9月29日、安倍政道氏（享年68歳）の告別式がメダデ教会（西成）で執り行われた。参列者は30名程度、お花一つ、棺一つ、費用は、生活保護（葬祭扶助）からの約20万だった。

同じタイミングで執り行われた、同年代の二人の「安倍さん」の告別式。一人は元首相で一人は元受刑者。元受刑者の「安倍さん」の告別式に出たことで、もう一人の「安倍さん」のことも頭から離れない。

安倍政道氏は、いのちを削りながら極道の世界で人生の大半を過ごした。刑務所を出たり入ったりしながら、最後の抗争では、殺人と傷害の罪で8年間服役した。その時はすでに、彼自身の体やこころも壊れていた。出所した彼は、もはや極道の世界で戦える状態ではなくなっていた。

出所後、ドヤ街のさんかく公園で、キリスト教の路傍伝道をしてきたメダデ教会の西田好子牧師に出会った。神の愛な

賛美を1曲歌ってからは、西田牧師が2時間ぶっ通しで、安倍氏の人生についてしゃべりまくった。その大半は、本人が聞いたら「そこまで言わんでも……」と言っような、彼の起こしてきたハチャメチャな出来事をぶちまけていた。安倍氏の人間としての弱さ、小ささ、犯してきた罪、それによる苦しみや痛み。どれ一つとして、ほめられたものではない。しかし、それが彼の人生そのものだった。ありのままの彼の人生が、集まった「家族」や「仲間」に、「愛おしそうに」語られていた。

その後、みんなで賛美を歌った。彼らが手をつなぎ始めた。野太い、調子っぱずれの「おっさん」の声が、ものすごい迫力で教会に響き渡った。

1. 人生の海の嵐に もまれ来しこの身も
不思議なる神の手により 命拾いしぬ
いと静けき港に着き われは今 安らう
2. 救い主イエスの手にある 身はいとも安し
悲しみの罪の中より 救われしこの身に
誘いの声も魂 揺さぶること得じ
いと静けき港に着き われは今 安らう
救い主イエスの手にある 身はいとも安し
3. すさまじき罪の嵐の もてあそぶまにまに
死を待つは誰ぞ直ちに 逃げ込め港に
いと静けき港に着き われは今 安らう
救い主イエスの手にある 身はいとも安し

どきどきと当時の安倍氏にはどうでもよかったが、「うちの子になって（メダデ教会に来て）人生やり直さんかい！」は無視できなかった。「姐」と西田牧師のことを呼びながら、その後をについていった。

極道で培った彼の考え方や価値観は簡単に変わるものではなかった。西田牧師に反発し、メダデの信徒にもきつくあたった。昔の仲間とつるんで問題を起すたびに、西田牧師は容赦なく殴りつけながら、「安倍、変われ！変わらんかい！お前には神の家族があるんやぞー」と、絶対彼の手を離すことはなかった。

糖尿病を始め、ありとあらゆる病気が安倍氏を蝕み、数年前から歩くことすら難しくなった。幻聴や妄想にも悩まされ、彼が殺し、切りつけた人の顔が頭から離れなくなることもあった。そして、昨年の入院から、彼の体調が回復することはなかった。コロナ禍により、面会もできなかった。「何とかメダデの家族と最後を過ごさせてやりたい」という、切なる祈りと願いもかなわず、2022年9月26日、病院にて息を引き取った。連絡を受けた西田牧師は彼の最後の瞬間には間に合わなかった。

告別式は、メダデの家族、関係者が集まった。

西田牧師は、1曲終えるごとに「安倍！」「政道！」「起きろー！」「お前のいるところはここちゃうやろー！」「戻ってこいー」と、安倍氏の顔をしばきながら、叫んでいた。

それから、用意していたパンにぶどう液をひたし、安倍氏の唇に、何度も何度もあてながら、彼に「聖餐式」をした。イエス様がともにおられることを、彼の亡くなった体にしみ込ませているようだった。途中からは、安倍氏の顔に西田牧師の顔をくっつけ、皮膚を通して直に話しかけていた。「安倍、イエスさんにメダデの家族のことをちゃんと話すんやぞー」と。

メダデ教会の文化なのだろうか。最後の献花では、メダデの家族みなが、安倍氏の顔を触りまくっていた。たかさんの手作りの折り鶴が棺に納められた。そして、家族として過ごした、あたたかな何本もの手によって、棺が閉じられた。

帰りの電車で一人になると、過呼吸のように息が苦しくなってきた。涙があふれ、どれだけ拭いてもとまらなかった。

安倍氏のことを悲しくて泣いているのではなかった。自分の感情が爆発してしまった。ものすごい愛だった。圧倒されるような愛だった。その愛に圧倒されて泣いていた。その愛がすぐくて、息が苦しくなるほどだった。

故人の弱さ、痛み、小ささをまくしたてた2時間のメッセージ、美しいハーモニーとはかけ離れたおっさんの歌声、棺の中の安倍氏を、生きているかのようにしばきまくりながら抱きしめる牧師、息を引き取った後の聖餐式、そして最後にささげられた祈り……

「神さん、私は正直あなたをうらんでます。安倍を生き返らせることもできたのに、それをせんかったあなたがわかりません。もうくるいそつです。死んだ人に向かって、『安らかなお顔で旅立たれましたね』と普通は言うのかも知れません。そんなことあるかい！安倍は泣いとる！メダデに帰りがかった、家族のところへ帰りがかったと泣いとる！そやけど、あなたは安倍のこの世のいのちを終わらせました。もうあなたにお願いするしかできません。神様、安倍を頼みます。」

愛とは、本気であること

愛とは、きれいなことではないこと

愛とは、苦しいこと

愛とは、隠せないほどの弱さや痛みがあること
愛とは、隣の人と手をつなぐことができること

安倍政道さんの告別式は、隠しようのない痛み、弱さがあふれていた。本人にも、集まった人たちにも。しかし、その弱さや痛みでつながった人たちの中に、おどろくばか

りの神の愛が、揺るがされることなく根付いていた。西成の厳しい地域の中で、圧倒されるほど美しかった。

安倍元首相

あなたは、ご自身の国葬をどう思われますか？
あなたの人生には、本気の愛がありましたか？
このようなむき出しの愛がありましたか？

あなたの隠しておきたいような弱さや痛み、失敗を、どんな功績よりも愛おしく受けとめてくれた人はいましたか？
本気で愛してくれる人の「人生をやり直さんかい！」の声に、
応答できましたか？

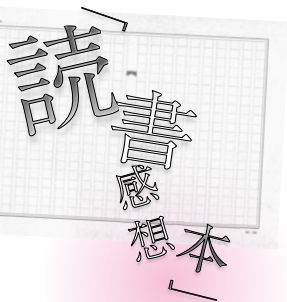
本気で愛することは苦しい。

でも、その苦しみがいの中につながっているのなら、こんな私にも「本気で愛する」ことができるのだろうか。

愛したからこそ引き受けなければいけない「苦しみ」に、こんな私でも希望を見ることができののだろうか。

〈おわり〉

障書のごとく、福祉のごとく、「こんなことを聞いてみたい」
「あなたがあれば、ぜひ、CLCから読んでみたい」
店 (dc@karashidane.or.jp) までお問い合わせください。



『愛をばらまけ』

大阪・西成、けったいな牧師とその信徒たち
読売新聞大阪本社社会部 上村信也 著
筑摩書房 1400円＋税



この本は、けったいな牧師、西田好子さんが大阪西成の釜ヶ崎(あいりん地区)近辺につくったメダデ教会の毎日を、キリスト教徒ではない新聞記者・上村真也さんの目を通してつづられたものです。読売新聞の夕刊に2019年1月から2020年6月まで連載された記事が書籍化されました。

酒やギャンブル、薬物におぼれ、心も体も壊し、悪態をついて自暴自棄になり、その日暮らしをする男たち。その渦中に「神の愛」だけを武器に飛び込んでいった小柄な女性牧師。その奮闘記ともいえるこの本は、しかし、西田牧師の「立派な行い」を称賛する本ではありません。また劣悪な環境から立ち直った人の「更生の話」でもありません。それを期待して読むと、大いに裏切られます。いわゆる「更生の成功談」よりも「失敗談」の方が多く、今は成功に思えることも、一気に失敗にひっくり返る危うさを抱えたメダデ教会なのです。

まずびっくりするのは、西田さんの牧師らしからぬ口の悪さ

と自己主張の強さと喜怒哀楽の激しさです。ふつうの暮らしをしている人なら一生縁のない「シャブ」だの「アオカン」だの「女買う」だのと言った言葉を、説教のなかでも連発します。もともとお上品な言葉を使う人ではないのかもしれませんが、西成の路上で、炊き出し目当てに集まってくる酔っ払いの男たちと本気でかかわるには、そういう言葉しか通じないのかもしれない。でも、その口の悪い説教には、可愛いらしいユーモアやジョーク、やわらかで優しい言葉が散りばめられています。

二人の息子を抱えて離婚し、46歳で洗礼を受け、教師を辞めて「野宿者のために」と52歳で牧師になった西田さん。現在72歳になるこの女性は、私たちが思い描く「ふつうの教会」におさまりきれなかった牧師です。それは、良いとか悪いとか、正しいとか間違っているとかの問題ではなく、それが西田好子さんなのだからしかたがない、という次元の話のような気がします。一方で、ふつうの教会がそんな西田さんをもてあましてし

まったのも、しかたがないことだろうと思います。

ただ、そこらが神の腕の見せどころ。「ふつう」が通用しない西成で、「おもしろいやないか。あんたのけつたいなキャラで、わしの大事なあいつらのために、ごつつええ教会、作ったつてんか」と、神様がくせの強い関西弁で声をかけられたのかどうかは知りませんが、人間の小さい頭では思いつかない西田牧師の赴任先を、神みずから決定されたということなのかもしれないせん。

そもそも「メダデ」という教会のネーミングですが、聖書に登場する人物の名前だと聞いても、ほとんどのクリスチャンが「えっそんな人、いたっけ？」と反応しそうな気がします。旧約聖書にたった一度だけ名前が載ったメダデは、やっぱり少しはみ出し者で、西田さんに似ています。(民数記11章26節)

さて今回、この本をとりあげたのには、理由があります。

それは、からしだねセンター(障害者地域生活支援センター)職員・武山さんが、数か月前からメダデ教会にちよくちよく顔を出すようになり、私もまたメダデのはちやめちやな話をリアルに聞く機会をいただいたこと。そして、この本の最後のあたりに登場する「ゴトウ」という人(本名は安倍政道さん)が9

に苦しむのは誰でもない、自分自身だということ。

「ゴトウ(安倍政道さん)は、西田さんとメダデで出会い、何があっても絶対に見捨てようとしないうちに愛にふれたとき、自分の犯した罪の重さに気づくことができました。それまでは殺人でさえ、自分の強さがもたらした手柄や功績のように誇っていたのです。自分に母親がいるように、殺された相手にも親がいて、殺人を犯した我が子を悲しむ親と、殺された我が子を思っ悲しむ親がいることに、初めて目が開かれます。

「ほんまに、悪いことをした」

ここにきてようやく、心の底から痛恨の思いがわき上がってきた。

「その気持ちは大事や。祈れ。罪と向き合おうだけやのうて、後悔の、その先を見るんや」

西田の考える「贖罪」は、「過去」を反省し続けることとは、違っ。「今」でできることを主力でやる。その積み重ねが「未来」となり、やがて「新しい過去」となる。(168ページ)



聖書は、すべての人間は等しく「罪びと」だと言います。神の救しも平等です。そして人間には他者の「罪」の重さをはかることはできません。



月26日に亡くなり、「安倍のために、葬式でオルガン弾いたつてえな」と武山さんが西田牧師に呼ばれた

こと。極めつけは、武山さんが書いた「二人の『安倍さん』の告別式」というできてきたほやほやの手記を私も読ませてもらったこと。その手記が私を圧倒したこと。そしてその同じ手記が、少なからずの波紋を呼んだこと、などなのです。

「一国の総理大臣経験者を、犯罪者と並べるなんて、失礼だ」「国のリーダーを担う大変さを、想像できないのか。上から目線でものを言わないで」

「犯罪者の成れの果てに、税金からお金をもらって葬儀をしたわけでしょう。国のために功績を残した人の国葬の費用のことに文句を言える立場ですか」

そんな声もあったと聞いたとき、私は「ああ、そういう受け止め方をする人もいるんだ」と思いました。

武山さんが言いたかったのは、「国葬反対」ではありません。生きていく間に社会的な地位、肩書、称賛を手にした人にも、元受刑者で「人間の屑だ」と毛嫌いされた人にも、同じように死は訪れるということ。死の前に、人は皆、平等に自分の過去を突きつけられるということ。傷つけた人、犯した過ちの重さ

かく言う私は時々「神様はあのヒットラーでさえ愛しておられたんだろうか？」と考えることがあります。私は自分のことを「ヒットラーよりはまし」だと思っいて、それは神の視点から見れば、傲慢でしかないのだろうと頭では理解していますが、それでもやっぱり「ヒットラーよりはまし」という思いを拭い去ることができないのです。きつとそれがちっぽけな私という人間の「平等」の限界であり、総理大臣と犯罪者は平等に扱われるべきではないという考えにどこかで通じるものなのだと思います。それは、悲しいかな、私の中にもあります。

ただ、神の救しへの招きの声は、イエスの左右に磔けにされた二人の罪人に、極めて平等に届いたことと思います。

元受刑者の安倍さんは「ほんまに悪いことをした」と、悔いるチャンスを与えられました。そのチャンスをもたらししてくれたのが、西田さんの「ばらまく」愛でした。人間の「平等」を突き抜けた愛でした。

二人の安倍さんに向けられた神の救しの御手が、死の間際のお二人のたましいに等しく触れたことを、祈らずにおれません。

店長 坂岡 恵

スタッフおススメ
今年の聖書カバーもかっこいい!

からしだねオリジナル 本革聖書カバー 2022版

素材の表情を生かした艶やかで
透明感のあるクリスタルアニリン仕上げの
革を使用。

使い込むごとに革がなじみ、
色も変化していきます。

すでに残りわずか
お早目のご購入を...

~~5~~
~~6~~個限定

クリスマスプレゼント
にいかがでしょうか?

共同訳・新改訳聖書、
旧約・新約聖書の
B6版が入るサイズです。

裁断からステッチまですべて
手作業で仕上げたこだわりのカバーです。

8,000円(税込)

超特価です

CLCからしだね書店 古書友の会のご案内

日頃よりCLCからしだね書店のためにご協力
いただき、ありがとうございます。
このたび、「古書の流通を通して、からしだね書
店を応援すること」を目的に、「CLCからしだ
ね書店・古書友の会」が発足しましたのでお知
らせします。
「友の会」に入会いただきますと、特典として、
地下の古書コーナーをご利用いただけます。
書店レジにて、簡単な入会申込書を記入して提
出ください。入会費は無料です。

※カード作成中のため
デザインはイメージです

まだ値段がついていない本もありますが、おむ
ね、文庫本は100円、他の本も100円~定価
の7割程度でお買い上げいただいております。(中
には2円50銭という定価の本もあつたりしま
すが、それはまた別の話)

古書一覧リストページ

<https://karashidane.or.jp/project/job-assistance/clc-books/usedbook/usedbook-list>



皆さまからご寄贈いただいた
古本・古書は、からしだねワ
ークスで働く利用者や職員、ボ
ランティアさんで、整理とク
リーニング、値付け、登録な
どを分担して行っています。

中には、絶版になった貴重な本もあ
り、「あ、こんなところに、欲し
かった本が...!」と思わぬお宝を発見
するお客様もおられます。

ご寄贈くださった方も、からしだね
ワークスで働く利用者さんたちの暮
らしが支えられ、ふさわしい買い手
のもとに本が届きますように、と
いうお気持ちだと思いますので、他
で高値がついている本も、定価以上
の値はつけません。

◆HPの
古書のコーナーを
ご利用ください◆
「古書一覧リスト
ページ」から検索
できます!
絶版の本もありません。
おめあての本が見つか
たら、ぜひご来店く
ださい(念のため売
れ残っていないか電
話かメールでご確認
いただけると幸いです)

新刊紹介

クリスマスプレゼントにもおススメの絵本、
読書の秋にぴったりの本、
.....お気に入りやゆっくりお探しください。

1

『ひらいてたのしい！
クリスマスのおはなし』
いのちのことば社 880円
(税込) コペンハーゲン社編
集部 文 ギル・ガイル 絵



年少向けのクリスマス物語。各見開きに、大きな扉が1つだけあります。その扉を開くと、物語の重要なセリフが出てくるという画期的な仕掛けになっています。

扉を開くたびに、大きな驚きと感動を子供たちに与えます。天使のみ告げ、羊飼いの礼拝、博士の来訪まで網羅。

2

『ジグソーパズルつき
せいしよえほん』
いのちのことば社 1320円
(税込) エルセ・キアスティーネ・ユル 文 ニーナ・デ・ポロニア・ニル 絵

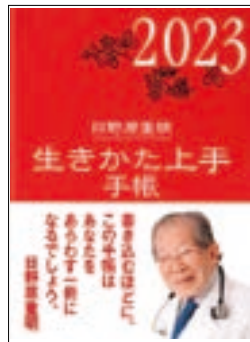


かわいらしいイラストと、わかりやすい言葉で聖書が楽しく読める、「せいしよものがたり」が登場！

アダムとエバから、イエス・キリストの復活まで、子どもたちに聖書を伝える最適の一冊。最初と最後のページに、親子で楽しめるジグソーパズル付き。

3

『2023 生きかた上手手帳』
ハルメク 1320円 (税込)
日野原重明 著



聖路加国際病院の名誉院長で100歳を超えても現役医師として活躍をした故・日野原重明先生。

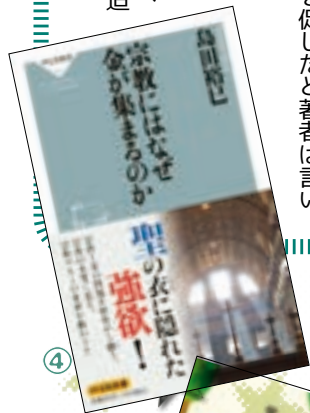
今なお根強いファンの多い日野原先生が自ら監修した「健康手帳」です。1週間ごとの自分の健康状態を書き記せるほか、先生の名言があちこち散りばめられています。

4

『宗教にはなぜ金が集まるのか』
祥伝社 990円 (税込)
島田裕巳 著

安倍元首相銃撃事件でクローズアップされた、宗教と金の問題。宗教にはなぜ金が集まるのか？歴史を辿り、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教を比較しながら、明らかにしていきます。たとえば、キリスト教では清貧を掲げ、それを実践する場である修道院や教会に金や土地が集まり、墮落していき、そのことに反発して新たに生まれた修道院も、やがて同じ道を歩みます。こうしたことが繰り返されてきたのです。いっぽうで、キリスト教における利子禁止の戒律は神学を鍛え、経済学の誕生を促したと著者は言います。

宗教と金の問題を考察するなかで、宗教、そして人間とは、その本質に迫ります！



5

『エッセイ 好きやねん、イエス！』
ヨベル 1980円 (税込み)
滝澤武人 著



『エッセイ 好きやねん、イエス！』

6



6

『言葉を植えた人』
聖経書房 1650円 (税込み)
若松英輔 著

「暗闇にあるとき人は、一つの言葉を抱きしめるようにして生きることもあるのだ」と

確かな杖となる言葉を味わうエッセイ集。

舟越保武、志村ふくみ、石牟礼道子、吉本隆明、池田晶子、神谷美恵子、北條民雄、宮崎かつゑ、井筒俊彦……。

言葉にならないものの波打ち際に立っていると感ずることではおそらくない。

それは愛される者であるよりも、愛する者であることを真に望む、自己への信頼なのである。(本文より)

古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担
いただけるとありがたいです。(受付できないも
のもありますので事前にお知らせください)

百科事典・辞書・開封済
みのCD・DVD・月刊誌・
週刊誌等は
受け付けておりません

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

中田千代様、高橋裕子様、杉浦孝夫様、西村よう子様、竹川満里子様、匿名希望1名(順不同)

9月の古書の収益は41,650円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思っております。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆オリブス、DAGなどのカタログが、ようやくそろいましたので、教会にお届けしております。書店にもおいておりますので、どうぞお持ち帰りください。この秋、いくつかの商品が値上げせざるを得ない状況になっています。◆そんななかで、お財布にも優しい古本の販売は、ありがたいことにたいへん順調です。皆様からお寄せいただく本も途切れることはありません。もちろん、新しい良書がたくさん出ていますので、キリスト教出版業界がつぶれてしまわないためにも、新しい本もどんどんお買い上げいただくとありがたいです。◆10月になってもまだ残暑…と思いきや、突然冷え込み、体がうまく適応できません。どうぞ皆様、くれぐれもご自愛ください。

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの
バックナンバーはこちらから

